

令和4年 年 3 月 31 日

（あて先）熊本市長

団体名 カフェ てくてく会
代表者 職名 会長 氏名 光嶋敏雄



熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

令和3年 4月1 日付け指令（地活）第 1-2 号により、熊本市市民公益活動支援助成金

の交付決定※を受けました事業の実績について、熊本市市民公益活動支援基金実施要綱第21条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

1 助成事業名

くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」助成事業 音楽の集い

2 助成事業の実施期間

令和 3年 4月 1日 ～ 令和 4年 3月 30日

3 助成事業の内容

事業1例会 認知症の人やその家族、サポーターなどが月1回専門の音楽療法士の指導の下、歌や楽器を通して仲間との交流や感情表現をすることで、存在価値の確認や自信につながる。また、夫婦関係の再構築の場にもなっている。

セッション終了時には振り返りや交流のために茶話会を行った。

事業2 出前講座

サテライト方式で音楽カフェを開くことで「カフェ てくてく会」の熊本市在住のメンバーとその地域の認知症の人たちが出会いともに音楽を楽しみ分かち合うことで認知症の人や

その家族とのネットワークの構築に少しではあるが取り組むことができた。

事業3 舞台発表

結果として、コロナ禍で実施できなかった。

4 事業の成果

コロナ禍ではあったが「音楽カフェ」5回、「出前講座」1回を行うことができた。

「音楽カフェ」は安心できる居場所としてのみどりの小路で音楽を楽しみ発表会に向けての練習にもなった。指導者なしの活動としての「カフェ てくてく」はまだまだ認知度が少なく広がるまでには至らなかった。

「出前講座」は八景水谷昭和館で施設の利用者やその家族、入居者と音楽を共有することで交流を持つことができ今後の足掛かりとなった。

「舞台発表」は、結果としてコロナ禍で実施できなかったが、リハーサルとしてグランメッセ熊本で開催された「第28回 日本ホスピス・在宅ケア研究会 全国大会 in 熊本（ハイブリッド）」の会場発表に参加することができ関係者一同大いなる達成感を味わい、自信にもつながり、また全国の参加者に周知できたと考える。

5 助成事業の実施状況

- (1) 事業収支決算書（様式第16号）
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類等
- (3) その他参考となる資料

事業収支決算書

◆収入決算

項 目	金 額	内 訳
会費		
当該事業による収益		
当該事業に対する寄附・協賛金		
その他の自己資金		
当該事業に対する助成金額	11,799	
その他の補助金、助成金等【D】		
合 計	11,799	

◆支出決算(事業別)

事業名 支出費目	事業1	事業2	事業3	合計
	例会	出前講座	舞台発表	
人件費				
報償費				
旅費				
人件費等合計【A】				0
役務費	1,286			1,286
使用料・賃借料				
事務・消耗品費	10,513			10,513
委託費				
合計	11,799			11,799

助成申請上限額(助成種別:スタートアップ 助成)

$$〔事業費 11,799 - 控除額【E】0〕 \times 10/10 = 11,799$$

※控除額…超過人件費(人件費等の合計が事業費の1/2を超えた部分)とその他助成金の合計

人件費等の合計【A】	0	➤	超過人件費【C】※	0
事業費の1/2【B】	5,899		その他助成金【D】	0
超過人件費【A-B】…【C】	-5,899		控除額【E】	0

※マイナスの場合は0円

◆支出内訳（事業別）

事業1〔 例会 〕

人件費	
報償費	
旅費	
役務費	切手 1,286 円
使用料・賃借料	
事務・消耗品費	封筒 330 円 コピー用紙 327 円 プリンターインク 9,746 円 模造紙 110 円
委託費	

事業2〔 出前講座 〕

人件費	
報償費	
旅費	
役務費	
使用料・賃借料	
事務・消耗品費	
委託費	

事業3〔 舞台発表 〕

人件費	
報償費	
旅費	
役務費	
使用料・賃借料	
事務・消耗品費	
委託費	

別紙（１）

事業報告書

実施年度	令和 3 年度
事業名	くまもと・わくわく基金「公益社団法人熊本法人会ファンド」助成事業 音楽の集い
事業期間	令和 3 年 4 月 1 日 ～ 令和 4 年 3 月 30 日
事業の目的	熊本市は認知症施策に積極的に取り組み、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりを推進している。「カフェ てくてく会」も認知症の人の居場所として仲間づくりの場として地域との連携を図りながらネットワークづくりにつなげていく。
具体的な 事業内容	事業１例会 認知症の人やその家族、またサポーターなどが月１回専門の音楽療法士の指導の下、歌や楽器を通して仲間との交流や感情表現をすることで、存在価値の確認や自信につながり表情に変化がみられている。また、共通の場所で共通の音楽という媒体を分かち合うことで夫婦関係の再構築もできている。セッション終了後には振り返りや交流のために各自持参のお茶で茶話会を行った。 ① 日 時：令和３年４月から令和４年３月まで 毎月１回の予定であったがコロナ禍により５回の開催に終わった。詳細は別紙参照のこと。 ② 場 所：みどりの小路、八景水谷昭和館 ③ 指導者：音楽療法士 ④ 参加者：認知症の人、家族、サポーター１０名程度 ⑤ 広報先：あいぽーと、地域包括支援センター（２７ か所）、チラシ配布（計 ３００枚程度） ※チラシに茶菓子実費として参加費 １００ 円を記載したが、コロナ禍で飲食を制限したため、徴収はしなかった。 ⑥ 郵便代について：今後の予定や近況報告等をメンバー・サポーター（８４ 円×９ 名）講師・山鹿回生会病院（１４０ 円×２ 通）（有）せせらぎ（２５０ 円）に郵送した。 事業２出前講座 サテライト方式で音楽カフェを１回開くことができた。「カフェ てくてく会」の熊本市在住のメンバーとその地域の認知症の人たちや家族、施設職員と音楽を通して交流を持つことができた。 ① 日 時：令和３年７月１１日 ② 場 所：八景水谷昭和館 ③ 指導者：音楽療法士 ④ 参加者：認知症の人、家族、サポーター、施設関係者 １９ 名 ⑤ 広報先：八景水谷昭和館、関係地域包括支援センターチラシ配布（５０ 枚程度） 事業３舞台発表 結果として、コロナ禍により実施できなかった。

実施場所	あいぽーと、八景水谷昭和館、みどりの小路、公民館
協力団体	株式会社オフィスひかり野、認知症の人と家族の会熊本県支部
事業の効果 ・公益性	今回の事業を通して音楽活動は笑顔になり楽しみや達成感を味わえること、音楽は心身のリフレッシュになり家族やサポーターにとっては心に余裕ができ認知症の人に対してやさしく接することができることを再認識できた。またカフェを開くことによりサポーターや支援者が地域に増えていくことは認知症の正しい理解につながり地域ケアシステムの一端を担っていくことにもなる。今年度はそこまでには至らなかったが今後も活動が続けていくことが成果につながっていくと考える。
次年度以降の 事業展望	今年度は地域と共同していく活動はあまりできなかったが経過と成果、課題を振り返る報告・交流会を実施し新たな共同への足掛かりとする。また次年度は活動報告（若年性認知症家族の介護を通して）＆コンサートの形で啓発活動にも力を入れていきたい。
事業への想い (当事業によってどのような熊本市にしていきたいか)	2025 年に向けて認知症の課題はまだまだ山積みである。「認知症になっても安心して住み慣れた地域で顔なじみの人たちに囲まれた生活が継続できる」ことを望む人は多い。 【認知症に対して正しい理解と偏見を持たない啓発活動】を目標に、今後も音楽活動を通じて認知症の人やその家族が“たとえできないことが増えても地域の人の理解や手助けがあれば心豊かに生き生きと住み続けることのできる”姿を発信し、地域の認知症サポーターや民生委員、社会福祉協議会などと手を携えて「この町に住んで良かった」と思えるようなまちづくりの実現に一役を担っていきたい。